

## 7日 土曜

### 士師



2:11 それで、イスラエル人は主の目の前に悪を行い、バアルに仕えた。

12 彼らは、エジプトの地から自分たちを連れ出した父祖の神、主を捨てて、ほかの神々、彼らの回りにいる国々の民の神々に従い、それらを拝み、主を怒らせた。

13 彼らが主を捨てて、バアルとアシュタロテに仕えたので、

14 主の怒りがイスラエルに向かって燃え上がり、主は彼らを略奪者の手に渡して、彼らを略奪させた。主は回りの敵の手に彼らを売り渡した。それで、彼らはもはや、敵の前に立ち向かうことができなかった。

15 彼らがどこへ出て行っても、主の手が彼らにわざわざをもたらした。主が告げ、主が彼らに誓われたとおりであった。それで、彼らは非常に苦しんだ。

16 そのとき、主はさばきつかさを起こして、彼らを略奪する者の手から救われた。

17 ところが、彼らはそのさばきつかさにも聞き従わず、ほかの神々に慕って淫行を行い、それを拝み、彼らの先祖たちが主の命令に聞き従って歩んだ道から、またたくまにそれて、先祖たちのように行わなかった。

18 主が彼らのためにさばきつかさを起こされる場合は、主はさばきつかさとともにおられ、そのさばきつかさの生きている間は、敵の手から彼らを救われた。これは、圧迫し、苦しめる者のために彼らがうめいたので、主があわれまれたからである。

19 しかし、さばきつかさが死ぬと、彼らはいつも逆戻りして、先祖たちよりも、いっそう墮落して、ほかの神々に従い、それに仕え、

それを拝んだ。彼らはその行いや、頑迷な生き方を捨てなかった。

20 それで、主の怒りがイスラエルに向かって燃え上がった。主は仰せられた。

「この民は、わたしが彼らの先祖たちに命じたわたしの契約を破り、わたしの声に聞き従わなかったから、

21 わたしもまた、ヨシュアが死んだとき残していた国民を、彼らの前から一つも追い払わない。

22 彼らの先祖たちが主の道を守って歩んだように、彼らもそれを守って歩むかどうか、これらの国民によってイスラエルを試みるためである。」

23 こうして、主はこれらの国民をただちに追い出さず、残しておき、ヨシュアの手に渡されなかったのである。

ここに表されているような“循環”は成長できない民や人間の様子と一緒にです。士師記のテーマはまさにそこにあります。

指導者がいる時など、人間的な条件がある場合は信仰的な行動をしますが、神様のみことばそのものに従っていない場合、その条件がなくなると神の御心を忘れてしまいます(11)。

主の守りや恵は受けられなくなり、または主が不信仰に気づかせようとなさり、わざわざいもたせられることとなります(15)。

そして主に助けを求め、主はあわれんでくださり、さばきつかさ(士師)によって助けてくださるのですが、安心したさばきつかさが死ぬと逆戻りしてしまふのでした(19)。

私たちがそうならないようにと、主はイスラエルの歴史を記して、教訓を与えてくださったのです。人間によって信仰が左右されることなく、神ご自身のみことばによって生きましょう。また安心なときも主の恵と守りがあってのことですから、

それを忘れないで、主に従いましょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？

